高次脳機能障害者小金井友の会　たより 16 号

いちごえ会

2017 年 4 月 20 日発行

発行責任者：増村幸子
編集者：村田雅英
〒184-0004 小金井市本町 2-20-9-103
ホームページ：http://ichigoe.org/
メール：info@ichigoe.org

茶和会 2017 年 2 月 11 日

さておいて！会に参加した人達とはだんだん顔なじみになり環境や状況等も把握出来る様になり茶菓子を手にとりながら顔を緩めたり、しめたりしながら話しております。高次脳機能障害の人は障害がそれぞれ違います。A さん「うそ！その様にはみえない」B さん「いえいえ外面はいいのヨ、家ではネ・・」(笑) なる程なる程！一緒に生活している家族しか判らないヨネ、「わかるわかる」とうなずく皆さん、この様に和やかな茶和会です。もちろん難しい話もありますがどうしたらいいか知恵を出し、助け合います。

この会の一番のモットーは当事者の家族が心身共に健やかである事です。そうでなければ支えていくことは出来ません。そして助け合える仲間です。初めての皆さん一度会にいらっしゃいませんか、お待ちしていますヨ。

今回は新しい方々の参加を楽しみにハガキでお報らせしましたが残念ながらありませんでした。
如何にしたら１人でも多くの方々が参加して下さるのか、これからの私達の宿題だと思っています。

次回は６月３日 (土)13 時 30 分～ハガキ等で連絡します。　（渋谷桂子記）

中央大学 緑川ゼミ 2017年1月13日

心理学ゼミ３、４年生60名に高次脳機能障害を理解して貰う企画に広幸(当事者)と私(保護者)の親子で出席しました。

広幸は大学生の時に交通事故で障害者となり、緑川教授の質問にそれぞれの立場から現在の気持ちを説明しました。質問の概略は①受傷前(健常時)②受傷後の本人の様子③利用してきた医療や福祉制度④受傷前と受傷後の認識の変化⑤家庭内、休日の過ごし方⑥作業所やいちごえ会についてなどです。

あい間に私から障害の程度、「障害者総合支援法」、「障害者雇用促進法」を簡潔に説明しました。ありがたい事に後日、全員のレポートが教授から送られて来ましたが、つたない今日までの生活体験の説明にもかかわらず「お礼と励まし」の言葉を頂き、これからも家族で頑張っていく勇気を改めて持ちました。

又、将来福祉関係に進む方が沢山いらっしゃる事も知り頼もしく思いました。将来ある皆さんの反面教師として少しでもお役に立てれば何よりで、私たち親子にとってもいい経験になりました。　(渋谷泰幸記)

第 28 回役員会・新年会

2017 年 1 月 22 日

就任以来初めての安仁屋衣子顧問を迎え今年最初の役員会が開催されました。議題は新理事の選任、学習会第 5 回「君にカスタマイズした働き方を学ぼう」、新提案の「高次脳機能障害カフェ居・場・所」などについて検討しました。

会議後、上田敏先生をはじめ日ごろお世話になっている役員の方々と当事者主動の交流会運営委員で新年会を開催しました。会議では出ない表情が出て仲間ならではの絆を深めることがました。

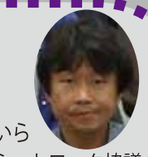
第 100 回若い失語症者のつどい

2017 年 2 月 4 日銀座吉の翔にて
参加者 104 名（当事者・家族・ボランティア）

北海道から、愛媛県までの当事者や支援者で熱気にあふれていました。

100 回までの道のりは当事者の成長の確認でもありました。当事者が一生懸命話そうとすると、会場の皆さんが全身を耳にして聞き、理解し合えた時の喜びは感動そのものでした。高次脳機能障害、失語症は重い後遺症ですが、皆さん一生懸命生きていました。
100 回までの延べ参加者は 3,500 人以上でしょう。
歴代の会長、相馬事務局長お疲れ様でした。

中大 緑川先生が講演



日時：2017 年 1 月 28 日　会場：ルネこだいら
主催：北多摩北部地域高次脳機能障害支援ネットワーク協議会

高次脳機能障害の方々に問題行動が生じる背景を整理すると「情動認知の問題」「過敏性の問題」「抑制の問題」が浮かび上がってきます。

情動認知の問題とは、脳の障害によって相手の表情や言外の意味を読み取りにくい、あるいは危ないという自身の感覚を捉えにくいなどの状態で、結果として相手を不愉快な思いにさせたり、懲りない行動を繰り返したりします。

また感覚過敏のため、周囲には気づきにくい音や光などの環境の変化、あるいは周囲の感情に対しても敏感に反応し、不快に感じやすくなっています。
その上で、抑制の問題（我慢が難しい）があるため、ちっとしたことで怒りを爆発させたり周囲とトラブルになったりします。ただ、このような問題行動は一方的に生じるものではなく、周囲の反応も影響を与えています。このような周囲の反応は専門用語で感情表出（Expressed Emotions:EE) と言います。EE の中でも本人に対する批判的なコメントが特に本人の状態に影響することが知られています。また、最近の研究では当事者のすべてが批判に対して反応するのではなく、批判に対してより敏感に感じやすい人々が存在するようです。すなわち、すべての人が批判に対して反応するのでもなく、また周囲が批判したからといって必ずしも問題行動に直結するのでもありません。

ただ、高次脳機能障害の当事者の方々の中には、批判に対して敏感に反応するスイッチが入りやすい人がいて、そのような人の前で批判的コメントをすると、問題行動が生じやすくなるようです。以上のように、問題行動は周囲と本人の状態の相互作用の結果として生じると言えますし、解決や理解の糸口もそこにあると言えるかもしれません。

五十嵐京子氏 小金井市議会議員に当選

五十嵐京子氏はいちごえ会設立前から高次脳機能障害に深い関心を持ち、いちごえ会設立に貢献されました。その後は監事として会の運営、会員の就労にも協力して頂きました。今後は高次脳機能障害者が小金井市で安心して働き・暮らせるように行政への働きかけを期待します。

高次脳機能障害をもった

きみにカスタマイズした働き方を学ぼう

カスタマイズ就業学習会
～障害者が「働く」ために～

“カスタマイズ就業”を
実現するために
～企業の立場から～

座長 上田敏 & 企業側 三輪敏彦

いちごえ会では昨年2月から今年2月まで「カスタマイズ就業」についての学習会を計6回開きました。これはアメリカで始まった新しい考え方で、これまでのように「仕事に人を合わせる」のではなく、「人に仕事を合わせる」、「『カスタマイズ』（特別注文）の仕事をみつける、なければ作る」というものです。

講師は飯野雄治氏（稲城市役所）、峯尾舞氏（北原国際病院作業療法士）などの方々でした。テーマは第1回「総論」、第2回「ディスカバリー」（障害者の隠れた能力を発見する）、第3回「ミニ学習会」（前回の補習）、第4回「職探し会議」、第5回「地域の困りごと探し」（その障害者に適した仕事で、地域に役立つものをみつける）、第６回「雇用の提案と実現」で、講義だけでなく、模擬劇やグループディスカッションなど、「参加型学習」の工夫が凝らされていました。

私は司会でしたが、正直いって私を含め多くの人は、「外国のものをそのまま持ち込んでも巧くいかないだろう」と懐疑的だったと思います。しかし回を重ねるにつれ、興味が増して、皆さん段々積極的になってきました。

今後は会員の中の具体的なケースについて実践し成果をあげていきたいと考えています。

「ディスカバリー」(いいところ探し)というプロセスを学びましたが、これは障害者雇用に限らない“人事管理の要諦”であると私は強く思いました。

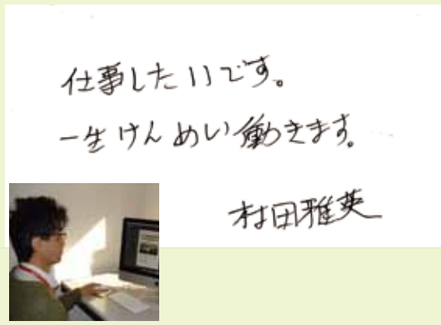
現在我が国の障害者法定雇用率は2%であり(50人以上の民間企業)、更に100人以上の企業にはペナルティもあります。企業の総務・人事担当者の関心事は概ねこの点にしかありません。

高次脳機能障害は、外見からは分かりにくく一人一人症状が異なっているので、「カスタマイズ就業」は難しいものになりがちですが、会社側としても、一般社員と高次脳機障害者との組合せによる業務効率化や生産性向上の余地は大いにあります。

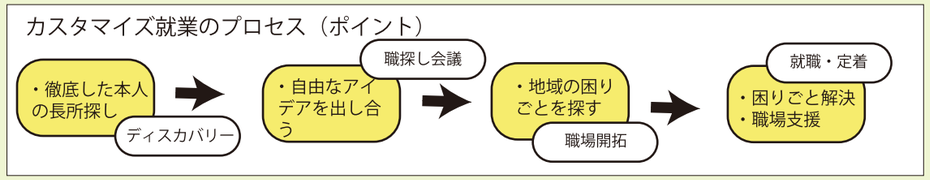
企業の社会的責任(=CSR)を担わんとする経営者のリーダーシップと高次脳機能障害者の働きたい要望と学習会にも多数参加された就業支援者の皆様の熱心な協力体制が、必ずやカスタマイズ就業を推し進めていくと確信します。

加瀬澤　綾子さん

第５回カスタマイズ就業　最終回に参加しました。この学習会に連続して参加できたことで、自身の就労支援の振り返りの時間を持つ事ができました。いちごえ会さんのこの学習会は就労支援をしている人だけではなく、就労支援を受けたいと思われているご本人も参加されています。どちらの側でも自分の事として考えられる「場」で共に考えられた事が多くの気づきを与えてくれました。多くの方との出会いに感謝しています。



第５回「きみにカスタマイズした働き方を学ぼう」学習会を終えました。
2017 年 2 月 19 日小金井市前原暫定会場にて



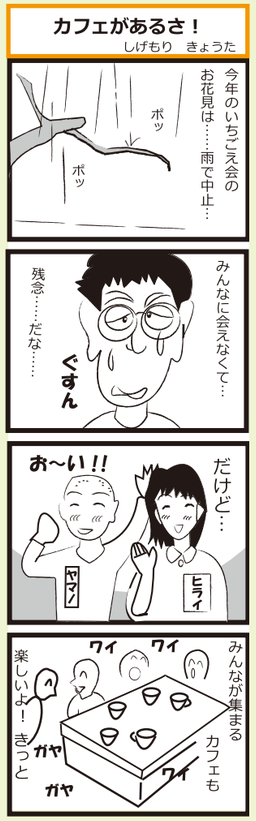
2016 年 2 月第 1 回「カスタマイズ就労とは」をスタートし、第 3 回の復習会を入れると 6 回シリーズでした。

上田敏先生を座長に飯野雄治さん、峯尾舞さん、清野絵さん、伊藤美由喜さんを講師に当事者、家族、就労支援者企業側が集まり、「障害者が生きがいを持って働く」を学びました。

会社に雇用の提案をする支援者（演習）

障害者を仕事にあわせるための訓練は高次脳機能障害者にはあまり役に立たず、たとえ就職しても訓練が活かされません。当事者ができること、やりたいこと（いいところ）を基本にカスタマイズ（特注）した仕事を作り出し、症状に応じた働き方を順に学びました。

最初は当事者の「いいところ探し」を徹底して行いました。特にミニ学習会の参加者は当事者が中心となりました。このミニ学習会に参加した方々の「できるんだ・働きたいスイッチ」がオンになりました。

働きたい、社会の一員として貢献したいと障害者は願っています。同じ思いの人が集まり、知恵と情熱をもって力を合わせるとできると思いました。

学習会の後は実践です。みなさん、新しい挑戦をしましょう。